

甲信食糧 創業50年記念

教育支援を拡充

カンボジアに小学校建設

学校給食など業務用食材卸の甲信食糧(中央市山之神、中込武文社長)は創業50周年の記念事業として、カンボジアに小学校を建設した。10月上旬に校舎が完成し、現地で記念セレモニーが開かれた。同社は2006年から、所属する協同組合「関東給食会」の寄付で建設された小学校との交流を続けてきた。中込社長は「日本の学校給食文化を広めるきっかけにしたい」と話している。

〈戸松優〉



甲信食糧が創業50周年の記念事業で建設した小学校



学校建設の感謝状を受ける中込武文社長(左)  
二いずれもカンボジア

中込社長は、東南アジア諸国にある食品メーカーの工場視察をきっかけに、内戦で荒廃したカンボジアの学校教育に関心を持った。06年に所属する「関東給食会」の設立40周年事業としてNPO法人「JHP学校を作る会」に建設資金を寄贈して校舎を新設。同社社員を毎年学校に送

り出し、寄付を募って鍵盤ハーモニカやリコーダーを現地に届けるなど交流を重ねてきた。中込社長によると、カンボジアは長く続いた内戦で学校や教師が不足し、校舎の老朽化で天候により十分に授業が行えない学校もある。同社の創業50周年を機に教育支援を拡充しようと、NPO法人を通じて建設依頼のある学校を調査し、今年2月に現地を視察。首都プノンペンから約200キロ北東のトゥボンク

モム州にある老朽化した「タペン小学校」の建て替え資金を寄贈し、水洗トイレなども新設した。同校には小学1〜3年生約100人が登校する。

中込社長は10月上旬、社員ら6人とカンボジアを訪問。新校舎の前で行われたセレモニーに出席し、文房具や富士山をPRするポスターなどを届けた。カンボジアの教育省から感謝状を受け取った。

中込社長は「食を通じて教育に関わる企業として、日本の学校給食文化を伝えながら教育の機会を奪われた子ども

たちへ支援をしていきたい。山梨県内でも支援の輪が広がってほしい」と話している。